

第43回 名古屋クラシックフェスティバル

©Grzegorz Mart

©Ariga Terasawa

ワルシャワ国立 フィルハーモニー管弦楽団 with 牛田智大

Warsaw Philharmonic Orchestra
with Tomoharu Ushida
Anna Sułkowska-Migoń

指揮: アンナ・スウコフスカ-ミゴン

(うしだともはる/ピアノ)



©Grzegorz Mart

ショパン: ピアノ協奏曲 第1番

ホ短調 op.11

ドヴォルザーク: 交響曲 第9番 ホ短調 op.95 「新世界より」

2025.9.2 (火) 18:45開演(18:00開場) 愛知県芸術劇場コンサートホール

S¥15,000 A¥12,000 B¥9,000 C¥7,000 D¥5,000 U26¥2,000:公演当日26歳以下の方対象。入場時に年齢を証明できるものをご提示ください。

プレイガイド

Chuチケ:052-308-8282(平日11:00~17:00)

名古屋クラシックフェスティバル

検索

チケットぴあ:(Pコード:295-790) イープラス 芸文プレイガイド:052-972-0430



お問い合わせ

中京テレビクリエーション ☎052-588-4477(平日11:00~17:00)



主催:



中京テレビクリエーション

※プログラム内容、出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。 ※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

ポーランドで1901年に創設された伝統あるオーケストラ、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団。ショパン国際ピアノコンクールのファイナルで共演するオーケストラとしてもお馴染みだが、今年が5年に一度の開催年にあたるそんなコンクールの前月、ポーランドで今期待を集める女性指揮者、アンナ・スウコフスカ-ミゴンとともに来日する。

ショパンの祖国であることからまずピアノ音楽を思い浮かべがちだが、ポーランドには、オーケストラ、特に弦楽器の分野でも、名手たちが脈々と受け継ぐ豊かな伝統がある。

今回、ソリストとしてワルシャワ・フィルとショパンのピアノ協奏曲第1番を演奏するのは、牛田智大。2022年からワルシャワのショパン音楽大学で学ぶ彼は、時間を見つけてはフィルハーモニーホールに足を運ぶうち、「弦楽器が深い呼吸を持って主体となり、その歌にオーケストラ全体がついてくる」この楽団の音色に魅了されているという。そして近年ショパンに集中して向き合い、ポーランドの歴史文化や作曲家の心情をより知っていくうち、「この作品は一般的にセンチメンタルな歌と軽やかな舞曲が特徴とされるけれど、実際には、ポーランドで革命の機運が高まっていた頃にかかれたもの。もう少し砂埃の香りが出せたら」と思うようになったそうだ。

そしてスウコフスカ-ミゴンは牛田にとって、ショパン大学の先輩にあたる存在。ポーランドの文化に生きてきた共演者たちと牛田がステージで対話し、何かを受け取ってゆく様子を目の当たりにできるかもしれない。

偉大な指揮者たちと共演を重ねてきた伝統あるオーケストラが、次世代を担う祖国の女性指揮者と届ける新しい音楽、さらなる飛躍への期待が高まる日本の俊英との共演と、注目すべきポイントの多い公演。会場で聴き届けよう。

音楽ライター 高坂 はる香



アンナ・スウコフスカ-ミゴン (指揮) Anna Sułkowska-Migoń, Conductor

ポーランドのクラクフ生まれ。2022年ラ・マエストラ国際指揮者コンクール優勝。以来、ワルシャワ・フィルをはじめとするポーランドの主要オーケストラと定期的に共演。

2023年グシュタート音楽祭指揮者アカデミーにてネーメ・ヤルヴィ賞を受賞。

2022~2024タキ・オルソップ指揮者フェロシップ受賞。

2024年1月にはフィラデルフィア管にデビューし、評論家の絶賛を浴びた。

2024/25年シーズンは、ベルン市立劇場で『エフゲニー・オネーギン』の新演出12公演を指揮するほか、ヤナーチェク・フィルハーモニー管、アルスター管など次々とデビューを重ねる。これまでに、ベルリン・ドイツ響、ポーランド放送響、バリ室内管、ニース・フィルハーモニー、ドレスデン・フィル、オタワ・ナショナル・アーツ・センター管等と共演。今回が初来日となる。

牛田智大 (ピアノ) Tomoharu Ushida, Piano

2012年、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。同年3月、ユニバーサル ミュージックよりCDデビュー。これまでに、ベスト盤を含む計9枚のCDをリリース。リリースしたCDは、2015年「愛の喜び」以降、続けてレコード芸術特選盤に選ばれている。

これまでに国内外の著名指揮者やオーケストラと共演を重ね、全国各地の演奏会で活躍。2024年1月には、トマーシュ・ブラウネル指揮プラハ交響楽団日本公演に出演。

2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せて聴衆賞およびワルシャワ市長賞を受賞。2019年3月出光音楽賞。2024年リーズ国際ピアノ・コンクール聴衆賞。2024年度第51回日本ショパン協会賞。

ローム ミュージック ファンデーション 2023年度奨学生。江副記念リクルート財団第53回奨学生。



ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

Warsaw Philharmonic Orchestra

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、1901年新たに建設されたフィルハーモニーホールの柿落しとして最初の公演を行った。指揮は楽団の共同創設者・初代音楽監督兼常任指揮者のエミール・ムリナルスキ、ピアノ独奏はイグナツィ・ヤン・パデレフスキであった。第一次世界大戦前から第二次世界大戦までの間に、ポーランドのみならず、ヨーロッパの音楽界においても主要な団体のひとつとなっていた。第二次世界大戦直後、本拠地フィルハーモニーホールが再建され、楽団には国立管弦楽団の称号が与えられた。これまでにヴィトルド・ロヴィツキ、ボーダン・ヴォディチコ、カジミエシュ・コルト、アントニ・ヴィット、ヤツェク・カスプシク、アンドレイ・ボレイコが芸術監督を務めた。今日、ワルシャワ・フィルは世界的人気と高い評価を確立。ショパン国際ピアノコンクールや“ワルシャワの秋”現代音楽祭でも定期的に演奏を続けている。